

# 平成21年度 事業報告

社会福祉法人 福岡育児院

## 1 事業実績

### § 【定員95名、暫定91名】

入所定員	95名	延人員	1140名
平均入所数	67名	延入所数	804名
入所率	70.5%		

### § 職員数

施設長	次長	主任指導員	家庭支援専門相談員(主任)	児童指導員	保育士	心理療法士	栄養士	調理員	事務員	嘱託医	計
1	1	1	1	13 (1)	7 (2)	1 (1)	1	5 (1)	2 (2)	1 (1)	34 (8)

【備考】( )内は非常勤職員で、内数です。

### § 入所児の年齢別調

	平成21.3.31			平成22.3.31		
	男	女	計	男	女	計
幼児	9	7	16	10	6	16
小学生	20	7	27	16	7	23
中学生	6	10	16	8	7	15
高校生	6	2	8	6	3	9
合計	41	26	67	40	23	63

### § 入所児(理由別) H22.3.31 現在

措置理由	人数
父母の死亡	0
父母の行方不明	4
父母の不和	0
父母の拘禁	5
父母の入院	10
父母の就労	7
父母の性格異常・精神障害	0
父母の虐待(放任)	7
(身体的)	3
(心理的)	0
(性的)	0
養育拒否	1
破産等の経済的理由	6
不登校	0
その他	20
合計	<b>63</b>

※ 措置理由の内訳については、児童票の養護内容欄に記載されている分の集計です。

§ 退所人員（理由別）

H21. 4. 1～H22. 3. 31

		父のみ	母のみ	両親	その他	計
退 所	家庭引取り	2	3			5
	他施設へ		1			1
	進学（専門学校）					
	就職（行方不明）	1		1		2
	その他		1			1
合 計		3	5	1		9

§ 帰省状況

ア. 夏休み 〈8月12日～15日を中心に10日以内〉

8月13日在籍数 68名

- お盆里親 7名 10% 8月12日～15日
- 帰省児童 21名 31%
- 居残児童 40名 59%

イ. 正月 〈12月30日～1月3日を中心に10日以内〉

12月30日在籍数 65名

- 里親 4名 6%
- 帰省児童 32名 49%
- 居残児童 29名 45%

§ 入所児童の進路・進学状況

- ①高等学校卒業 男子 2名 ・ 女子 1名
- 就職 株式会社 巧芸社 男子 1名
  - 就職 アトラス化成 株式会社 男子 1名
  - 就職 洋菓子店 サクレクール 女子 1名

- ②箱崎清松中学校卒業 男子 2名 ・ 女子 3名
- 高等学校進学 香住丘高等学校 〈普通科〉 男子1名
  - 香椎工業高等学校 〈工業化学科〉 男子1名
  - 魁誠高等学校 〈総合学科〉 女子1名
  - 宇美商業高等学校 〈ビジネス情報科〉 女子1名
  - 博多女子高等学校 〈トータルビジネス科〉 女子1名

③博多幼稚園

- 年中 男子 2名 ・ 女子 0名
- 年長 男子 2名 ・ 女子 2名

(2) 児童支援について

★養護目標

- ①入所児童の権利擁護を基本理念として、こどもを中心に据えた養育の充実と治療的なケアも含め、ひとりのこどもに全職員で向かい合い、社会的自立にいたるまでの援助・支援を行う。
- ②基本的な生活習慣や節度ある態度の涵養と、自らを認める自尊感情や、物事への感謝等人間関係の基礎を培う。
- ③学習に励み、勤労を学び、困難にくじけない忍耐力とお互いに協力する精神を育てる。
- ④創意工夫する態度を身につけ、自主的に又、合理的に物事を判断する力を養う。

⑤身の回りの清潔に対する関心を高め、健康に留意する等の衛生観念を養うとともに、美しいものを愛し、豊かな心を育てる。

## § こどもの権利擁護と自立支援

こどもの支援に当たっては、こどもの権利擁護と自立支援のために、次のような重点方針によりこどもの支援を行った。

- (ア) 正しい基本的生活習慣を培い、節度ある態度を育てる。
- (イ) 社会に出たとき信頼され自立できる人間、ひとの痛みがわかる人間、ひとに感謝する気持ちを持つて人間の育成を図ることを自立支援の基本とする。
- (ウ) こどもの個別状況に応じた支援を通して愛着形成と自らを認める自尊感情の一層の確保・増進を図る。
- (エ) グループホームの運営は、新入幼児のならし保育に使用した。なお、1月から3月の間は、高校3年生（卒院予定児童）の独身生活の訓練の場として利用し卒院後の一人暮らしの生活のリズムや心の準備をさせた。
- (オ) スポーツを通じた心身の鍛練により、辛抱強さ、集中力、やる気や向上心を培う。
- (カ) 学力の向上のため、職員による学習指導を強化すると共に、学習塾の活用を図る。
- (キ) 夢を持てるこどもを育てる。
- (ク) 処遇職員と心理士の連携により、こどもの情緒の安定・改善を図ると共に、処遇職員のこどもの行動理解・支援技術の向上を図る。
- (ケ) こども用図書の整理・充実を行う。

## § 入所児童の活動状況

こどもたちは、スポーツ面・文化面や地域活動においても意欲的に取り組んでおり、数多くの成果を挙げています。

- ・ 福岡市児童福祉施設球技大会 ・野球の部 7年連続優勝
- ・ 福岡県児童福祉施設球技大会 ・野球の部 3年連続優勝
- ・ 九州地区児童福祉施設球技大会・野球の部 3位（19年度優勝、20年度3位）
- ・ 福岡市児童福祉施設球技大会 ・バレーボールの部 準優勝
- ・ 福岡県児童養護施設後川ふれあい駅伝大会・駅伝の部 21年度は中止（昨年まで6年連続優勝）
- ・ その他の駅伝大会・マラソン大会に参加し、多数入賞
- ・ 福岡県書写展覧会において金賞受賞（小学6年男子）
- ・ 毎月1回の奉仕活動で地域のゴミ拾いに取り組んでいます。（平成17年10月には福岡市長より表彰を受ける）

## § 年間行事

月	行事内容	月	行事内容
4	部屋移動 幼稚園入園式 小学校入学式 中学校入学式 高等学校入学式 中学校自然教室	10	芋掘り招待 アイススケート招待 福岡市乳児院養護施設協議会合同文化祭 福岡乳児院お月見会招待 櫛田神社七五三お祝い
5	全日本司厨士協会バイキング食事会 ライオネスクラブとの交流会 筥松小学校との交流会 箱崎清松中学校との交流会	11	八角部屋との餅つき大会 那の津ライオンズクラブとの交流会

5	箱崎清松中学校体育会 筥松小学校体育会 小学5年生自然教室	1 2	院内クリスマス会 福岡子供の家みずほ乳児院クリスマス会招待 校区クリスマス会
6	福岡市児童福祉施設球技大会 校区ソフトボール・ドッチボール大会	1	初詣 キッズニューイヤーマラソン 校区餅つき大会 博多法人会招待
7	施設自然体験学習 東区ソフトボール・ドッチボール大会 児童面接 福岡県児童福祉施設球技大会	2	つばさ合唱団第17回演奏会 私立高校入試 新宮マラソン
8	施設自然体験学習 つばさ合唱団合宿 焼き肉招待 ふれあいお盆里親行事 校区夏祭り 九州地区児童福祉司施設球技大会	3	公立高校入試 院内バスハイク 卒院・進級お祝い会 幼稚園卒業式 小学校卒業式 中学校卒業式 高等学校卒業式
9	西鉄招待 幼稚園運動会 箱崎放生会見学		★毎月1回誕生日会、避難訓練実施

### 3 施設の運営状況

平成21年度は、過去3ヶ年の入所児童数の減少から、91人の暫定定数でスタートした。

年度の途中から、ペナルティーとしての入所の停止は解除されたが、入所児童の生活の荒れやインフルエンザ等で、年明けまで実質的な入所はなかった。

年明けから、幼児を中心に入所措置が始まった。その間、児童の引き取りもあり実数は増加していないまま推移した。

年度当初から、従来の小学生部・中高生部を、男子部・女子部に分け、職員も編成替えした。5月から11月にかけて、高校生女兒を中心に女子児童の生活に荒れが目立ち始め、職員とのトラブルが続き、その都度センターとの連携を振り、協力を得て対応してきたが、疲弊した職員の退職などもあった。こどもの生活の荒れについては、中心になっていたこどもの家庭引き取りもあり、一定の落ち着きを取り戻している。

改善勧告の1つの柱であったスーパーバイズについては、野口理事の協力をいただき、年明けから毎月1回、院内研修として実施することが出来た。

小学校との合同研修会など開催することが出来、体育館使用などの了解も得られるなど協力・連携が深められた。

### § 外部職員研修参加実績

期 日		人数	期 日		人数
6・4～5	県養協施設長会	1	11・26	県養協 第1回職員研修会	2
6・10～12	九州児童養護施設職員研修大会	8	12・14～15	県養協 主任等職員会議	1
6・15	筑後川駅伝大会担当者会議	1	1・21～22	ファミリーソーシャルワーク研修	1
7・13～14	市乳養協 施設見学	9	1・21～22	九州児童福祉運営研究運営研究協議会	1

7・16	県養協 処遇改善特別委員会	1	1・27～29	嘉麻学園 宿泊研修	1
7・26	日本箱庭療法学会研修会	2	2・4～6	全国児童養護施設協議会 中堅職員研修会	2
10・28～ 30	全国児童養護施設 施設 長研究大会	2	2・3～4	県養協 第2回職員研修会	7
11・12～ 13	市乳養協 職員一泊研修	8	3・19～20	報恩母の家 宿泊研修	1
11・17～ 19	西日本児童養護施設職員 セミナー	4			

## § 良質な職員の確保と育成

真にこどもの養育に情熱と愛情を持てる職員を確保・育成するため、次のような事を行った。

- (ア) こどものより良い支援を行うには、職員の資質、支援技術等の向上を図る必要があるため、職員研修には積極的に取り組んだ。施設内における職員研修は毎月行い、年間に専門講師による研修を3回行うと共に、福岡市乳児院児童養護施設協議会や福岡県・九州・西日本・全国の養護施設協議会等が主催する職員研修に多数の参加をさせた。
- (イ) 良質な職員を確保するため、福岡県社会福祉協議会の人材センターやハローワーク等を通じた公募による職員採用を行った。

## § 居住環境や職員の執務環境を保持・増進

こどもたちのより良い居住環境や職員の執務環境を保持・増進するために、主に次のことを行った。

- (ア) 設備の点検と修繕（児童用ベット手摺り・ハシゴの補修工事、パソコンサーバー交換等）
- (イ) 公用車の買い換え（1台）
- (ウ) 児童用テレビ（5台）、児童用パソコン（2台）、衣類乾燥機（2台）購入

## § 施設運営の透明化の推進

- (ア) 広報誌の発行

福岡育児院の広報誌「ふれあい」第5号を7月に発行し、保護者、地域の方、関係機関等に配布した。

- (イ) ホームページの充実

施設の運営・経営をより透明化するため、財務諸表を公開し、苦情解決委員会の第三者委員の氏名・電話番号・住所をホームページに公表している。

また、こどもたちのスポーツ活動等の生活状況も掲載し、入所児童に対する理解をいただけるように努めている。

地域との連携を深めていくためにも、まずは福岡育児院の状況をお知らせすることによって、福岡育児院を身近に感じていただくように努めている。今後も、最新の情報提供を迅速に行うようになお一層の推進を図る。

## (4) 苦情解決について

平成21年度は、苦情解決委員会を開催して協議するような苦情はありませんでしたが、再度、苦情解決委員の氏名、住所、電話番号を入所児童にわかり易いところに掲示し、入所児童・保護者等への周知徹底に勤めた。